

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)佐藤製紙所本社社屋新築工事	階数	地上2F
建設地	相模原市緑区鳥屋字日影開戸756番1外	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	10人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年11月 予定	評価の実施日	2019年3月8日
敷地面積	3,861 m ²	作成者	(株)創和加藤設計
建築面積	1,792 m ²	確認日	2019年3月8日
延床面積	2,257 m ²	確認者	(株)創和加藤設計

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ BEE=1.0 C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外のオンサイト手法 ④上記④オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
本社社屋であるため、標準的な工場建物よりも事務所用途も考慮した内装計画で設計を行った。前面道路と建物間の空間を広く確保することで、車両が出入りする際に道路上に渋滞を生じさせないように配慮した。		
Q1 室内環境 F☆☆☆建材を採用することで、室内環境に配慮した。	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー LED照明を採用することで、消費エネルギーの削減に配慮した。	LR2 資源・マテリアル 躯体と仕上げ材が容易に分解可能とすることで、資材の有効活用に配慮した。	LR3 敷地外環境 LCCO ₂ 排出率=80%

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される